

フォーク抜き輪行の手順（分解）

ver.1.00

©omae jimusho

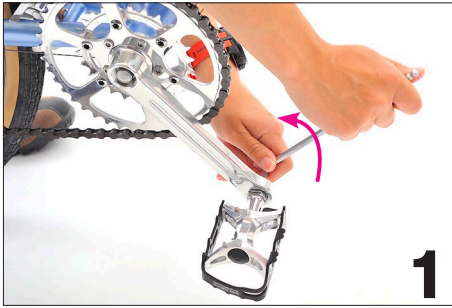


CYCLE TOURING

オオマエジムショ

TOKYO ASAKUSA

フォーク抜き輪行の手順（分解） その1



ペダルを外す。右ペダルは正ネジなので、時計回りで締め、反時計回りで緩む。工具は6mm アーレンキーか15mm スパナ、まれに8mm アーレンキーを使うペダルもある

1



後ろ泥除けを分割部から外す。アプレの場合はオリジナルのアルプス式分割小物を使っているので、ボルト1本を外すことで泥除けが分割できる

6



左ペダルは逆ネジなので、反時計回りで締まる。(本来、ペダルは大きな力で締め付けておくべき部分なので、6mm アーレンキーで作業する場合も、長いものをオススメする)

2



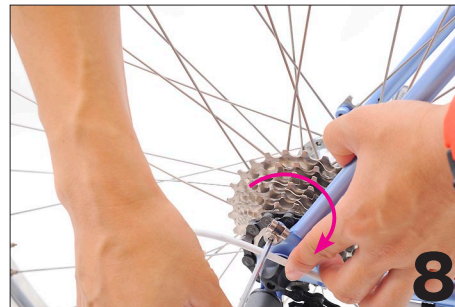
分割式の場合、このようにして後ろ泥除けが外れる。外した泥除けは誤って踏みつかないように注意しよう

7



カンティブレーキ本体を左右からリム側に押しつけてアーチワイヤーを緩ませ、アーチワイヤーの片側をブレーキ本体から外す。左右とも外れるものもある

3



泥除けステイの固定部ネジを軽く締めておく。こうしておかないと輪行中にネジが脱落してしまう

8



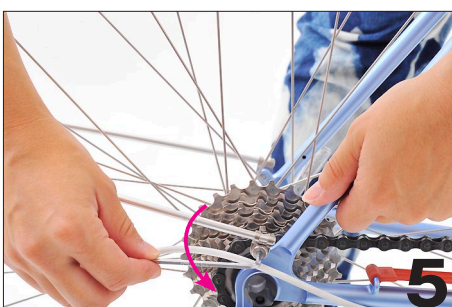
後ろのブレーキも同様にしてアーチワイヤーを外す。アーチワイヤーが完全に外れてしまう場合は、なくさないように注意が必要

4



泥除け分割小物のネジも同様に軽く締めておく。しっかりフタのできる小物入れを用意して、これら小ネジ類をまとめて入れて運ぶのもよい

9



後ろ泥除けのステイを左右とも外す。環付きダルマネジの場合は手で、その他の場合は適切な工具を使う。この場合は3mm アーレンキーで、ボルトを反時計回りに回す

5



アーチワイヤーを外したことでブレーキワイヤーは自由になっているので、後ろのブレーキワイヤーをフレームのアウトターカップから外す

10

フォーク抜き輪行の手順（分解） その2



ブレーキアウターはフレームのアウトカブに引っかかっているだけなので、容易に外れる。（ブレーキレバーからワイヤーが抜けるタイプならこの作業は不要）

11



うまくやれば、後輪はスムーズに下に外れる。左右の手はフレームやディレーラーを支え、後輪は下に落とすようにする

16



ハンドルステムを固定しているボルトを6mmアレンキーで反時計回りに回し、緩める。普通ならおおよそ180度程度回せば緩む

12



チェーンはチェーンフックに掛ける。手で掛けると手が汚れるので、アレンキーで作業するという手もある

17



ハンドルバー、ハンドルステム、ブレーキレバー、ブレーキワイヤーが一体となってフレームから外すことができる

13



地面に置いた後輪の上にフレームを重ねて置く。まだフレームからは前輪＋フロントフォークを外す前だ

18



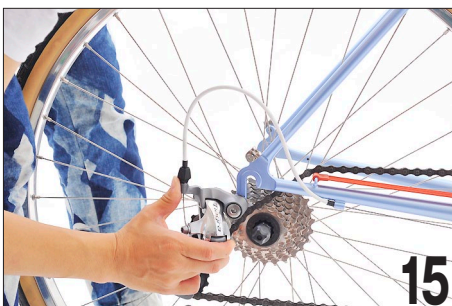
後輪のクイックリリースをCLOSE → OPEN へと起こし、後輪を外す

14



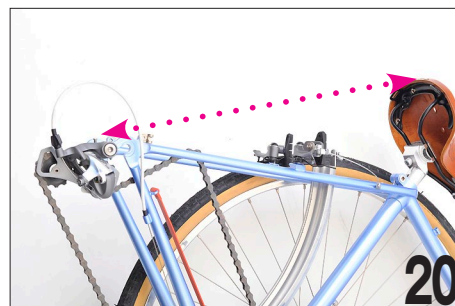
金属同士が接する位置に置くとキズがつくので、フレームやクランクはタイヤサイドに当てるように気をつける。難しければフレームカバー等を使うとよい

19



リアディレーラーを少し後方に動かしてチェーンをスプロケットから離し、後輪が下向きに外れやすいよう、きっかけを作るとよい

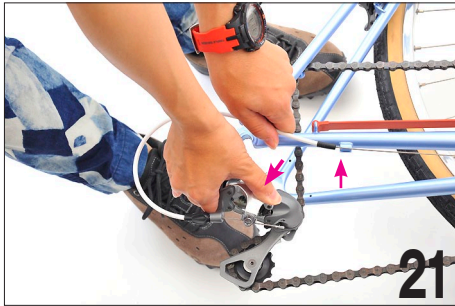
15



輪行袋に収めた時は、リアディレーラー、タイヤ、サドルを直線で結んだラインが接地することとなる。後輪とフレームを重ねるときには、接地ラインを意識して重ねよう

20

フォーク抜き輪行の手順（分解） その3



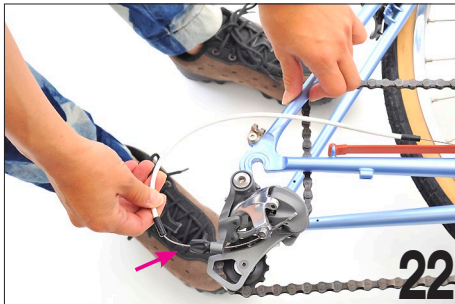
リアディレーラーをロー側へと手で動かしてシフトワイヤーを緩ませ、それを利用してシフトアウターをカップから外す

21



ヘッド小物は、なくさないようにフロントフォークに軽くネジ込んでおくといよい。もちろん時計回りだ

26



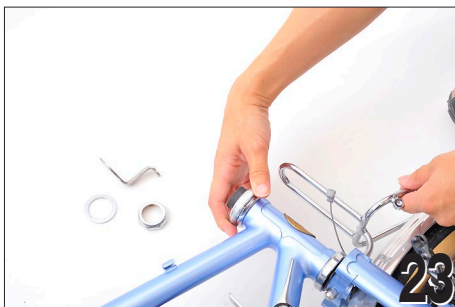
リアディレーラーからワイヤーが自由になるので、ディレーラー側からアウターを抜く。こうすれば、輪行時にアウターが地面に接して折れ曲がるトラブルを防げる

22



これがフォーク抜き輪行の3ピースを重ねた状態だ。他の輪行方式に比べ、ズバ抜けてコンパクトになる。当店ではこのサイズ専用の輪行袋も用意している（SL-100s）

27



フロントフォークを抜くため、ヘッド小物を手で回して外す（反時計回り）。（一般的なヘッド小物なら32mm スパナが必要となるが、アプレの場合は手で回すことにしている）

23



ハンドルバーは、うまく入れればどこにでも入るが、ここでは一番空間のある、リアエンド部から中に差し込む。（バーの形状や輪行袋のサイズによって異なる）

28



すべてのヘッド小物が外れれば、前輪はフロントフォークまるごと抜くことができる

24



分割して外した後の泥除けは、後輪に沿わせて収納する。ステイはスポークにからませるとよい

29



フロントフォーク部も、輪行完了時の接地ラインを意識して重ねよう。フロントフォーク部の向きは、フロントキャリアにライトを取り付けているかどうかでも異なってくる

25



輪行袋に付属する3本の中締めベルトで固定して完了。前後輪とフレーム、ハンドルバーを止めている1本に注目。フーデットレバーの場合、ここでレバーも一緒に固定する

30